



令和元年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

宮崎中学校区 令和元年6月4日(火)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆令和元年度のトークテーマ

トークテーマ ～子どもたちの未来のためにできること～

トークの柱 地域資源を生かした 人づくり

10年目を迎えた市長と市民の意見交換会「ふれあいトーク」。今年度からはトークテーマを「子どもたちの未来のためにできること」とし、子どもたちの「教育」について各中学校区単位で意見交換を実施しています。

◆市長から情報提供 とことん住みやすく、力強く発展するまちづくり

●地域の現状等を共有

①宮崎市でも人口減少が進んでおり、今後さらに人口減少が加速する見込みです。

- ・宮崎市全体の人口推移 令和元年 402,415人 ⇒ 令和42年 291,719人 (27.5%減)
- ・中央東地域自治区の人口推移 令和元年 25,503人 ⇒ 令和42年 18,054 (29.2%減)
- ・檜地域自治区の人口推移 令和元年 42,061人 ⇒ 令和42年 32,522人 (22.7%減)

②若い世代の転出超過が大きくなっています。そのため魅力的な雇用創出と地元で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

- ・宮崎市の年齢別の転入転出数をみると、15～19歳、20～24歳で大幅な転出超過となっています。
- ・市ではそのような現状に歯止めをかけるべく、企業誘致による新たな雇用の創出や、中学生を対象として県内企業を紹介する体験型進学・就職イベントなどを実施しています。

③人口減少が進むことで、地域の課題がより複雑化、多様化しています

- ・人口減少のスピードや高齢化率、歴史・文化は地域によって異なるため、それぞれの地域の特性に合ったまちづくりが求められています。

④地域には様々な組織や団体、行政機能があります。それぞれ連携し、特性を生かしたまちづくりを行いましょう。

⑤地域活動への参加で、元気な地域コミュニティを次の世代につなげましょう。

- ・宮崎中学校区での活動例…大淀河畔たまゆらまつり、チビっ子運動会、防災ミーティング災害図上訓練等



▲宮崎中学校区の現状や課題、市が現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

◆ フリートーク

● トーク参加者からの意見

- 子ども役員などいろいろな活動をしており、やって良かったと思っている。ただ、子ども会や自治会の加入者が減ってきているので、参加するきっかけをつくることが重要。
- 地区の活動や祭りに関わっている。その姿を子どもたちに見せることで子どもたちに感じ取ってほしい。中学生にも地域の活動にできる範囲で参加してほしい。
- 校区内には規模の大きい祭りがある。また、いろいろな施設も整っており、人が集まってくる。地域の方の子どもたちへの見守りもあり、安心できる環境ができています。これらが校区内の資源。
- 大人だけのアイデアは限られているので、イベントや活動の企画段階から中学生に参画してほしい。中学生の思いを実現するお手伝いをしたい。
- 校区内にいくつか学校があるが、小学校、中学校間の交流はなかなかない。学校同士が近いという利点を生かし、学校間の交流や校区内の高校生とも交流ができると良いと思う。
- 大人たちができることは、子どもたちが地域に触れるきっかけをつくること。それが地域でできる教育ではないかと思う。学校は自分たちの手で「学校づくり」ができる施設。地域の宝にしたい場所。



● 中学生からの意見

- 全校生徒に年賀状を書いてもらって高齢者に配る年賀状プロジェクトを生徒会活動でしている。高齢者の方に喜んでもらっている。若者が魅力を感じるような遊べる場所があると良い。
- 橿中学校と合同で、コアジサシのために清掃活動やひまわりを育ててできた種を福島県に送る活動に参加している。宮崎は今のまま、帰ってきたくなくなるような、ゆったりとしたところであってほしい。
- 中心市街地での祭りなど校区内にイベントがある。もっと体験的な祭りになると良い。就業の選択肢が増えると良い。



● 傍聴席からの意見

- 宮崎の良さはあたたかな人間関係。地域の方に学校の教育活動に参加してもらうことで子どもたちの教育活動が充実する。地域の方も子どもたちに元気をもらえる。濃い人間関係が形成される。
- 子どもたちが周りの高齢者と接する機会は少なくなっている。学校の活動に協力したいと思う高齢者は多い。ぜひコミュニティ・スクールを進めてほしい。
- 地域の魅力に気づき、語れる中学生になってほしい。そのことが地域の活性化にもつながるのではないかと。

● 市長からの回答、感想

- 宮崎中学校の全校生徒が地域の高齢者に手書きの年賀状を送る取組を初めて知った。このような取組みこそ地域の宝ではないか。今後も継続してほしいし、宮崎市内の他の中学校にも広まってほしいと思った。
- 地域資源を生かした人づくりを進めるには、学校（先生と生徒の両方）が地域を知ることが大事。また、コミュニティ・スクールを進めるには地域の方々の参画が必要となる。いずれも地域・学校が総力戦で取り組まなければ実現しないものと考えているので、宮崎中学校区の皆さんにご協力をお願いしたい。

～参加者アンケートより～

- ★学校は地域コミュニティの柱である。今後高齢化が進む中で多くの方々が学校に関わる仕掛けが必要。また、参画することの大切さ、子ども達は地域活動のこれからの担い手であるという思いで取り組んでいくことが大切と感じた。
- ★地域活動、PTA、子ども会活動に参加する方が減少しているのは明らかであり、子育て世代でも参加していない方、単身者の方は多くは会社等に所属されていると思う。会社等とその地域の交流が増えると多角的な拡がりが見られるのではないかと。

〈お問い合わせ〉

宮崎市 秘書課広報聴室
TEL 21-1705
FAX 29-6547

